



# 廿日市市教委だより

令和3年  
12月20日  
第9号



～ 子どもたちの笑顔を守るのはわたしたち ～

今年も残り10日余りとなりましたが、この1年、いかがだったでしょうか。忙しさに追われる日々だったのではないかと思います。年末年始はゆっくり休養してください。除夜の鐘の音を聴きながら1年間を振り返り、感謝や反省、来年こそという思いを馳せ、また新たな気持ちで新年を迎えましょう！

今回は、「授業改善」と「今後の取組をよりよくするためのアンケート結果より～不登校対策編～」について紹介します。



## 授業改善の“風”を起こす ～教室の“風景”と児童生徒の“姿”から考える～

令和3年12月6日（月）に開催された廿日市市定例校長会において、広島県教育委員会義務教育指導課 立田 晃教育指導監より講話をいただきましたので、紹介します。

### 1. 一人1台端末のもつ可能性（県内小中学校の実践例）

◎理科の実験の中にICTの活用を位置付け、実験の代替ではなく、学習の一層の充実を図るためのデジタル機器の活用◎生徒会執行部が「コロナ禍で何ができるか」という熱い思いから、ICTを活用した校内のコンテストやイベントの企画◎タイピング練習によりタイピングスピードを上げることで、考えるゆとりや就労・進路の可能性を拡充◎英語×ICTによりアウトプット（話す・書く）を充実させることで、自分の言葉で自分の思いを相手に伝える表現力を育成◎修学旅行の班別行動の計画を立てる授業で、不登校児童がオンラインでリアルタイムで授業に参加◎相手を想うことを対話や交流の根幹とし、見せ方や操作を工夫した相手意識をもった発表

☆対話や話し合いの場面において、ICTを活用！ ⇒ タブレットを**見せながら、指し示しながら、操作しながら**自分の考えを表現！ ⇒ 聞き手も、**友達の声・意見を本気で聞き、自分の考えを形成・調整する！！**

### 2. 新しい入学者選抜制度のメッセージ

「自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力」が、どのくらい身に付いているのかをみるため、令和5年度入学者選抜より、受験生全員に自己表現（面接ではない）が実施されます。自分がこれまで生きてきた中で、頑張ってきたこと、得意なこと、こだわり、大切にしていること、強み、弱み、入学後の目標等について、自分で選んだ言葉や方法で表現してもらいます。

☆「15歳の生徒に身に付けておいてもらいたい力」の育成に向けて～大切にしていきたい5つの視点～

①児童生徒が自己開示できる**安全・安心な環境**になっていますか。②**教職員自身の自己表現力**は発揮されていますか。意見が言い合える**風通しの良い職場**になっていますか。③自己の生き方を考えることにつながる**豊かな体験**や、体験を通じて考えたことを**表現する場**が、カリキュラムに位置付けられていますか。④**幼保小中を通して**、育成されていますか。⑤**すべての児童生徒に**、自己表現をする機会がありますか。



## 「今後の取組をよりよくするためのアンケート」の結果より ～不登校対策編～

市教育委員会では、今後の施策検討に向けて必要な改善や見直しのため、市内小中学校の先生方を対象に「今後の取組をよりよくするためのアンケート」を実施しました。不登校対策に関する設問と結果は次の通りです。

設問	知っている	知らない
①市が設置しているこども相談室があることを知っている。	91.8%	8.2%
②こども相談室がどこにあるか知っている。	73.3%	26.7%
③こども相談室でどんな活動をしているのか知っている。	66.6%	33.4%
④廿日市市内で学校やこども相談室以外で子どもの居場所や学習支援をしている機関を知っている。	60.3%	39.7%



※②、③については①で「知っている」と回答した人のみ回答

本市の不登校児童生徒は今年度増加傾向にあります。廿日市の不登校やその傾向のある子どもたちが自らの進路を主体的に捉えて社会的自立に向かうためには、学校そしてこども相談室をはじめとする機関が協働して適切な支援や働きかけを行う必要があります。こども相談室の場所や活動内容を知らないと回答した先生が約3割であったことを反省し、これから積極的な情報発信を行っていきます。市教育委員会では現在不登校支援につながる活動をしている機関とネットワークを構築することに取り組んでいます。より多くの子どもたちの居場所づくりや学習機会の保障につなげられるよう今後も連携をよろしくお願いします。

## 目指せ！日本一の図書室！

12月2日（木）に、令和3年度第2回読書活動推進員研修会を行い、安田女子大学名誉教授 中島正明先生に講話をしていただきました。その中で、子どもの不読は、大人の不読が大きく関わっているというお話がありました。

図書室に「先生おすすめの本」コーナーが設置されると、そのコーナーの本はあっという間に「貸出し中」になっていませんか？子ども達は、身近な大人が読んでいる本やお薦めする本に興味をもちやすいものです。

ついつい、「忙しくて…」と読書から遠ざかってしまいがちですが、私たちが本を読む姿を見せることが大切なのです。



この日は、平良小学校の読書活動推進員 永田恵美子さんに、図書室リニューアルの様子について報告していただきました。

図書室入口立て看板



子ども達や先生方、保護者の方と目指す図書室のイメージを共有し、一緒に考え、作り上げてこられた様子を伝えていただき、今後の取組の参考になりました。

## 特別支援教育の視点に基づいた学習指導と生徒指導

～個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成～

個別の指導計画と個別の教育支援計画のどちらも作成するのはどうして？

個別の教育支援計画と個別の指導計画は、趣旨に違いがあります。

〈個別の教育支援計画〉一人一人の生涯にわたる支援を各関係機関が連携して効果的に実施するために教育機関が中心となって作成。

〈個別の指導計画〉教育課程を具体化し、一人一人の指導目標・内容・方法を明確にして、個々の児童生徒の実態に応じてきめ細かに指導するために学校が作成。

教育支援計画については、関係者・関係機関が異なる目標で支援すると、子どもと保護者は戸惑い、支援の効果も上がりません。子どものよりよい成長につなげるためには、子どもに関わっている全ての人々が、共通の目標で支援を行う必要があります。また、子どもが成長するにつれて、関係者・関係機関や支援ニーズが変わります。そのときには、現在行っている支援を引き継いだり、見直したりすることが必要になります。

〈文部科学省「初めて通級による指導を担当する教師のためのガイド」、愛媛県総合教育センター特別支援教室「幼稚園、小・中・高等学校等における『個別の教育支援計画』作成の手引」より〉



これらの計画等を作成することが目的ではなく、子ども達のよりよい支援のために計画を作成します。そして、効果的に活用し、個々の実態に合った指導・支援を行うことで、子ども達の力を伸ばしていくことが大切です。

## ICT活用への道

## タブレットをこうして活用しています！番外編②

先月号に引き続いて、熊本市へ先進校視察に行ってきたときの授業についてご紹介します。

### 【実践例】中学校3年生の授業「裁判員制度と司法制度改革」

課題：裁判員制度に期待されていることは何でしょう。

各グループに課題だけが記入されたスライドを配付します。生徒は4人グループになって、この課題に対する答えを、教科書、資料集、インターネット等から情報を取得し、整理し、協働してまとめていきます。カメラ機能を使って、資料を写真に撮って添付したり、円グラフを掲載したりします。そこに、説明を入力したり、手書きで書き込んだりしていました。

「ねえ！この資料使えるかな？」「あ、これは誰か写真撮った？」「僕、撮ったから大丈夫！」「アップロードしておくね」「こっちの方がよく分かるかね？」「だったらこうしようよ。」といった会話とともに学びが進んでいきます。黒板に書かれていることだけを写すわけではない学びの姿が、そこに存在しました。子ども達の思考が活性化しているのが、その一瞬を見ただけで分かります。

まさに「自ら考え、主体的に行動する人を育むための授業改善」をICT活用の目的として、授業が着々と行われてきた積み重ねだと思いました。

子ども達の生き生きとした姿を、廿日市市でも広げていきたいと思えます。活用に限ったときには「ICTできるんだもん講座」を申し込んでください。

熊本市



裁判員制度に期待されていることは何でしょう。

.....

